

熊本市立松橋西支援学校(本校) 令和4年度(2022年度)学校評価表

1 学校教育目標
心豊かでたくましい児童生徒の育成
○ 心豊かであるということ
<ul style="list-style-type: none"> ・優しく思いやりがあり、自然や周囲の人を大切にすることができる。 ・自分の好きなことを見つけ、感性豊かに感じ取ったり表現したりできる。 ・友達や教師と積極的にかかわり、気持ちを重ね合わせながら活動できる。
○ たくましいということ
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら健康に気をつけ、体力を高めながら元気に毎日を過ごすことができる。 ・困難さを感じても、自己肯定感を元に挑戦する意欲を持つことができる。 ・自らの生活に目標を持って、積極果敢に取り組むことができる。

2 本年度の重点目標
○ より良い授業
<ul style="list-style-type: none"> ・育てたい資質・能力を踏まえた年間計画の作成(教務部) ・運動の日常化による体力の向上及び生活習慣の向上(保健体育部) ・児童生徒会活動の充実と、地域社会との交流の推進(生徒指導部) ・児童生徒の社会的・職業的自立を目指すキャリア教育の推進(進路指導部)
○ より良い教師
<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価シートを活用した評価検討会及び観点別学習状況の評価における専門性の向上(研究部) ・ICT教育の実践及びプログラミング学習の取組に向けた基礎研修の実施(情報教育部)
○ より良い学校
<ul style="list-style-type: none"> ・校内外の行事・諸活動を全体的に見渡した、円滑な業務の遂行(総務部) ・環境保全活動の推進及び防災意識の高揚と防災対応能力の向上(環境安全部) ・人権教育の視点で、よりよい教育的支援を行うための校内支援体制の検討(教育支援部)

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	時間外勤務時間の縮減を目指した業務改善の実施	・時間外勤務縮減を目標とした計画的な業務の遂行	・年間360時間超過者の割合を前年比15%縮減する。	<ul style="list-style-type: none"> ・業務負担の実態を把握し業務の簡素化と精選を行う。 ・毎月の衛生委員会時に職員の勤務実態を把握し該当する職員には積極的な声かけと面談を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、業務負担の実態を把握し、行事等の簡素化を行った。 ・教職員の超過勤務については、管理職からの声かけや面談等で意識が高まり、昨年度と比較して大幅に減らすことができた。
	育てたい資質能力を踏まえた年間指導計画の作成	・学部間の系統性のとれた年間指導計画の作成	・生活科及び理科について系統性を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科及び理科で取り扱う内容をどのように整理するか、教務部を中心に検討を行う。 ・他教科の検討にもつながるよう、検討のポイントを整理する。 		B
授業の充実	運動の日常化による体力の向上及び生活習慣の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が自分から取り組める種目の設定 ・児童生徒の肥満防止や生活習慣の向上に関する取組の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動を中心としたサーキット種目やニュースポーツを行う。 ・児童生徒の肥満度や生活習慣の実態について把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が取り組みやすい内容や自己評価表等を準備する。 ・職員、保護者を対象とした講師招聘研修会(健康に関する講演会)を実施する。 	B	

	授業評価シートを活用した評価検討会及び観点別学習状況の評価における専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 単元及び題材のまとまりごとの評価規準を設定した授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> 国語、算数・数学の評価規準一覧を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価検討会を実施し、評価規準の設定や評価の在り方についての検討を行う。 学習評価と授業評価を踏まえた授業改善のポイントを共有する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画シート・評価シートを活用した評価検討会を踏まえた、評価規準一覧を作成することができた。 授業改善のポイントについて、学部毎には共有することができたが、学部間で共有するには至らなかったことが課題である。
	ICT教育の実践及びプログラミング学習の取組に向けた基礎研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用した授業作りの推進 プログラミング学習の基礎研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員がICT機器を活用した授業作りができる環境をつくる 全職員がプログラミング的思考についての理解を深め、実践につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画シートにICT活用の項目を設け、授業研究会等で、その効果について検証する プログラミング学習についての研修を年2回実施する 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画シートにICT活用の項目を設けたことで、授業検討会等において授業での活用についての議論が活発になされていた。 プログラミング教育についての研修を2回行い、職員アンケートでは、理解が深まったと答えた職員が95%以上であった。今後の実践が課題である。
キャリア教育(進路指導)	児童生徒の社会的・職業的自立を目指すキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 小中高連続的で系統的なキャリア発達を促す啓発と情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 系統性を意識した将来つけたい力の重点項目を設定し、育成を図る。 月1回小中学部の保護者を意識した進路だよりを発行する。 	<ul style="list-style-type: none"> 月初めにキャリアアップウィークを実施し、将来必要な力の育成に全学部で重点的に取り組む。 高等部生・卒業生のくらしや進路の先からの声などを発信する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> はたらく、くらす、たのしむの視点で毎月の重点項目を決め、啓発を行うことができた。 小、中学部の保護者からのキャリア教育に関するニーズやフィードバックを得る機会が少ないことが課題である。
生徒(生活)指導	児童生徒会活動の充実と、地域社会との交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動の推進 移転に向けて松橋高校との交流活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動では、各学部で年間活動計画を立て、実施する。また、松橋高校との交流では、生徒同士の交流を年に2回以上行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会を計画し、委員会活動の発表の場を設定する。松橋高校との交流では、事前に担当職員で話し合いを行い、生徒と一緒に活動できる時間を検討する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動の発表の場を設けることはできなかったが、それぞれの委員会で取組の充実を図ることはできた。また、松橋高校との交流は、定期的に行うことができ、次年度から同じ敷地内で生活することを考え、意見交換を行うことができた。
人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修と人権学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修・人権学習を計画的に実施し、人権感覚を高める。 年間計画を立て、各学部において実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権に関する内容について職員研修を年5回行い人権学習の充実につなげる。 「命を大切にすることを育む指導」とともに、人権について各学部で情報共有し、啓発と対策を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修は年5回実施することができた。他学部の職員の情報共有や子どもの人権について考えることができた。 各学部で人権学習を計画的に授業ができ、自他の気持ちや行動を考えたり、大切にしたりすることを指導できた。

いじめの防止等	いじめの未然防止・早期発見・対策等における取組の充実	・いじめ防止の取組の情報発信 ・情報集約担当者の周知徹底	・児童生徒及び保護者、職員へ情報集約担当者の周知を行う。また、本校いじめ防止の取組をお便りなどで、発信する。	・生徒指導部全体で保護者に通知する活動内容等を発信できるように、定期的にお便りを作成する。	B	いじめ防止対策委員会では、特性のある児童生徒に対していじめと思われる事案をどのように吸い上げ、対応していくか、改めて話し合いを行った。取組について保護者に発信することはできなかったが、外部専門員からのアドバイスを基に、今後の方向性を検討することができた。
地域支援	地域における支援体制の充実	・巡回相談及び近隣の地域への対応	・巡回相談や来所相談、就学相談等に適切に対応する。	・依頼者と確実な連絡調整を行う。 ・巡回相談後の取組を確認し適切な継続支援を行う。	A	・依頼者と確実に連絡調整ができた。 ・巡回相談後の経過の聞き取りや、教育相談との連携を図りながら進めることができた。
	人権教育の視点で、よりよい教育的支援を行うための校内支援体制の検討	・教員間で連携し、児童生徒の理解とよりよい支援につなげるためのケース会議の実施	・児童生徒の思いや背景に焦点を当てたケース会議の実施と、次の実践につなげるための評価の活用。	・学部に応じて月行事に位置づけて運営する。 ・ケース会議の重点を周知するとともに、評価を基に今後の支援について確認を行う。	A	・学部の実情に応じた計画を基に実施することができた。 ・ケース会議では、背景に重点をおいた話し合いができた。評価については、一部のケースについては、担当が把握し検討することができた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	学校運営協議会(総合型)における協力体制の強化	・高等部移転に向けたビジョンの共有と相互理解の推進	・保護者・地域・松橋高校関係機関との連携を更に強化する。 ・毎月1回PT会議を実施し、職員の相互理解を深める。	・年3回の学校運営協議会を実施し、進捗状況を共有する。 ・交流及び共同学習等の様子等を地域の情報誌や学校HPで発信する。	A	・毎月1回、計10回のPT会議を実施し、職員間の相互理解を深めることができた。また、工事の進捗状況や交流及び共同学習の様子等を学校HPや通信で発信することができた。
	環境保全活動の推進及び防災意識の高揚と防災対応能力の向上	・安全で安心な環境づくりと災害時等における安全対策についての共通理解	・安全点検結果の共通理解と迅速な対応を行う。 ・安全対策マニュアルを活用し、災害時等における児童生徒の安全に対する職員の意識を高める。	・職員研修や防災訓練等において、意見交換やアンケート調査を実施し、災害時等の対応について改善を図る。	B	・防災訓練後のアンケートを参考に見直しや改善を図ることができた。高等部移転後の実施計画について、児童生徒の掌握と誘導を安全に行い防災意識を高められるよう検討する必要がある。

<h4>4 学校関係者評価</h4> <p>○高等部移転については、来年度を見据えた生徒会間の交流や防災訓練等、その他にも今後も丁寧に協議を詰めていく必要がある。</p> <p>○高等部移転について、実際に動き出してからの様子に関心がある。情報発信をお願いしたい。</p> <p>○進路指導部が発行する通信には、保護者としてもしっかりと目を通して見ている。以前実施されていた保護者の事業所訪問は難しい状況であるが、コロナの扱いが軽減したら、元のような事業所訪問を実施してほしい。</p> <p>○制約のある環境下で、成果や実績を積みあげるのは難しいと思う。学校独自で解決できる課題もあれば、外部の支援がなければ解決できない課題もあるので、学校運営協議会委員ともそのような事情を共有できれば、より建設的な意見や支援ができると思う。</p>
--

○教育目標や重点目標に対して、総括表ではきめ細かく具体的方策等が記入されており、わかりやすい評価表になっている。

5 総合評価

- 保護者アンケートでは、昨年度よりも「そう思う」の割合が大きく増えており、学校の取組が保護者の方々に良く伝わっていると感じた。その一方で、「わからない」の割合も気になる。
- 教職員アンケートにおいて、否定的な回答の割合が気になった。教職員の資質向上はどここの学校でも永遠の課題と言えるが、自らの組織や人材育成に厳しい視点を持っている教職員が存在する集団と捉えると、ありがたいとも言える。
- 保護者・職員アンケートで、「あまりそう思わない」「そう思わない」の数値が高いところが気になる。特に「教師の専門性や指導力」について。「保護者の教師への期待感と実感とのずれ」ではないか。決して教師の専門性や指導力に疑問があるわけではなく、保護者の思い描いているイメージと教師のイメージとの違いが、時としてトラブルの原因になるのではないか。その差異を埋めるためにも、教師が保護者の思いを知り、それに寄り添う姿勢を見せること。同時に教師自身の思いを保護者に伝えることが大切ではないか。
- アンケート結果から、個々の教職員の専門性や意欲の差を感じる。意欲のある職員の業務が過重にならないよう、成果を出している職員が不公平感を感じないよう、適切な評価や業務量に配慮が必要である。

6 次年度への課題・改善方策

- 一部の保護者からの厳しい意見もあるが、学校への期待が大きいとも受け取れる。これからは、より丁寧な説明が必要になると感じている。
- 保護者アンケートの「わからない」という回答について、今後学校として保護者の方へどのように伝えていくのか検討する必要がある。「わからない」を1%でも「そう思う」にしていくために。
- 保護者の厳しい意見にしっかりと向き合う教師をひとりでも多く育成してほしい。「保護者の不安＝生徒のSOS」でもあり、高等部移転についても、「環境が変わることの不安」という記述もあり、その不安を少しでも取り除けるよう寄り添ってほしい。
- B評価については、次年度A評価になるよう期待している。本校と分教室の、それぞれのA評価を組み合わせることで、より良い学校運営ができていくのではないか。